

## 2021年度 第9回奈良ESD連続セミナー 概要報告

◇実施日時 2022年1月6日(木) 19時～21時30分

◇方法 ZOOMを用いたオンライン

◇参加者数 19人

◇内容 現職教員のESD学習指導案の検討

【第1セッション】奈良教育大学 中澤 静男

1. 「世界遺産のある奈良に住んでいる私たち～古都奈良の文化財の魅力～」第5学年：総合  
奈良市立伏見小学校：梁川千尋、尾崎ひとみ

(1) 単元目標

- ・未来に遺したい『世界遺産』の魅力进行调查し、考える活動を通して、大切な文化財であることを理解する。(知識及び技能)
- ・調べたことをタブレットのスライドにまとめ、聞き手に分かりやすく表現する。(思考・判断・表現)
- ・世界遺産のある奈良に住んでいることに誇りを持ち、今後自分が積極的に調べた遺産の良さを発信する意欲と態度を持つ。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 単元展開の概要

①古都奈良の文化財の概要を知る。「古都奈良の文化財の魅力ってなんだろう？」

②調べる。古都奈良の文化財から1つ選んで調べ、スライドを作成する。

③オンライン講座：春日山原始林への理解を深める

講師：春日山原始林を未来へつなぐ会事務局長 杉山氏

④現地学習 春日山原始林・春日大社・元興寺・興福寺でのグループ見学後、全員で東大寺を見学

⑤古都奈良の文化財の魅力についての発表

⑥大牟田市の小学校との交流

⑦文化財を受け継いでいくために自分にできることを考える

⑧伏見地区で次世代に残したいものを書いて、個人でスライドを作成する。

(3) 意見交流

①地元のことをよく知る教育的効果とは何か

古都奈良の文化財についてグループで調べたことと、オンライン講座での話の内容において、「大切なものとは何か」といったイメージでしかなかったものが、重ねることであらためてきたのではない。それをオンラインでの話し合いを通じてスライドを作成する上での意見交流において、友達と共有できたことが、満足感や充実感(学んでよかった)につながった。

②スライド作成時の指導のポイント i

何を伝えたいのかを明確にすることと、4年生に伝わる伝え方を考えるよう指導した。その後で、スライドに掲載する資料や写真を選択させた。この順序が逆になると、伝えたいことのポイントがぼやける。

③スライド作成時の指導のポイント ii

調べる内容を自由に選択させたので、学びが主体的になった反面、うわべだけの理解に終わることが懸念された。うわべだけの理解にとどまっていたり、難しい言葉をそのまま使っていたりした場合は、教員側が積極的に質問して、もっと調べる必要があることに気づかせるようにした。

## 2. 「梅干作りから地産地消を考えよう！」技術・家庭科（家庭分野）

平群町立平群中学校 井阪 愛子

### （1）単元の目標

- 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した料理や材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、加工食品について理解し、地域の食材を用いた基礎的な日常食の調理が適切にできる。  
(知識及び技能)
- 市販の梅干と手作りの梅干の比較から問題を見出し、「地産地消」が「消費者」「生産者」「環境」「持続可能な社会」にとってどのようなメリットがあるのか考察し、理論的に表現できる。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 「地産地消」の視点から、よりよい生活の実現に向けて、どのように生活を工夫し、実践していくのかまとめることができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### （2）単元展開の概要

- ①用務員の方から「梅干しづくり」を依頼されたことを生徒に伝え、意欲化を図る。
- ②作り方や材料を調べる 「市販されている梅干しと調べた材料との違いに気づかせる」  
市販されている梅干しに使われている添加物
- ③地域のボランティアと一緒に梅干しづくりを体験する  
手作りが「基本」であることを実感させたい  
地域ボランティアとの交流を通じて「地産地消」のよさに気づかせたい
- ④梅干しを使った調理実習  
自分たちでつくった梅干しだから「安全」「安心」  
調理技術のスキルアップ
- ⑤地産地消のよさを考える  
「四方よし」（消費者・生産者・環境・持続可能な社会）それぞれの立場で考えることができるように、ジグソー法を用いて意見交流を深める。
- ⑥振り返り  
地元産の食材や伝統的な加工食品を調べる

### （3）意見交流

- ①「安全」と「安心」について  
安心は感覚的なもの。安全だけれども安心できないものがある。食べたときに感じたものを交流することで、「安心」の意味がつかめてくる。
- ②4つのポイントの抽出について  
生産者、消費者、地球環境、持続可能な開発に担い手の4つのポイントを生徒側から出せるのは難しい。このポイントについては教員が説明し、発展段階で、他の地元産品について、聞き取り調査等を行い、4つのポイントで整理する学習を行うことで、具体的な理解を促す。

## 3. 「伝統的な工業がさかんな地域 ～吉野の和紙から奈良の伝統工業～」第4学年社会科

平群町立平群北小学校 中澤 哲也

### （1）単元の目標

- 副読本や関係資料から、伝統的な工業がさかんになるための3つの要因（環境面・技術面・社会面）

に沿って必要な情報を読み取り、理解することができる。(知識及び技能)

○3つの要因のそれぞれの役割について考えることを通して、伝統的な工業が盛んになるために3つの要因は相互に関連し合っていることを考え、表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)

○3つの要因の大切さに気付くとともに、それらの要因を持続させていくための地域・人の在り方について問い続けることができる。(学びに向かう力・人間性等)

## (2) 単元展開の概要

### ①奈良県内の伝統工業のクイズ

和紙で作られたグローブを提示することで吉野町の和紙づくりへの関心を高める。

### ②吉野町で和紙作りが行われてきた理由を調べる

地形・自然環境 吉野川と竜田川を比べる

### ③紙すき体験 手漉きだけでなく、最近は機械でもつくられるようになっていることを伝える

### ④和紙作り職人について 映像資料：和紙工房の植浩三氏から読み取る

### ⑤吉野町の町おこしと和紙作りの関係を調べる

### ⑥伝統工業の継承に必要な要素を抽出する

自然環境、職人・技術、行政・町おこし、私たち・消費者の関係を考える

### ⑦洋紙と和紙を比較し、これからの自分たちの行動と結び付けて考える

「特別な時には和紙を使うことで、応援したい」消費することは応援すること

### ⑧県内の他の伝統工業について4つの要素で分析する。

## (3) 意見交流

### ①伝統工業の継承に必要な4つの要素

自然環境：美しい水と楮

技術：技術を伝えている職人

社会：和紙作りを町づくりに生かそうとしている行政

和紙を購入する消費者（私たち）

4つ目に「私たち」を入れることで、自分事化が可能となっている。

この4つの要素は、他の地域での学習にも普遍的に用いることができるのではないかな。

### ②体験的な活動

コロナ禍のために、実際に現地を訪問して見学したりインタビューしたりすることはできなかったが、学校において紙すき体験をしたことで、職人の技術を疑似体験し、教材と児童の距離が縮まったと思われる。コロナ禍においても、できることがあると気づかされた。

## 【第2セッション】：大西浩明

### 4. 「～大切にしよう！自分にとっての平和とそれぞれの平和を～」 6年総合 平和学習

奈良市立朱雀小学校 中村友弥

## (1) 単元展開の概要

どうしても形骸化してしまいがちな平和学習を深く考えさせたい。

子どもは戦争や原爆に対して断片的な知識は持っているが、他人事から脱しきれない。

→ 二人の語り部の方から生の声を聞く

・秋山さん（5歳で被爆された）

- ・大木さん（奈良市で焼夷弾の被害に遭われた）

当事者でしか語れない言葉の重みに気付くことができた（自分事によって変わったきっかけ）  
戦争と平和の境界線を考える活動を行う。

「〇〇だったら戦争、〇〇だったら平和。戦争と平和の境界線を考えよう。」

ある女の子の言葉

「うちのお姉ちゃんは部活ですごく頑張っていたのに、コロナのせいで発表する機会がなくなった」

「平和が当たり前と思っていたけど、当たり前じゃないことが戦争なんじゃないか」

今回の成果発表会に参加してくれた女の子たちは、普段そんなに学習に前向きでない子。

それが自ら希望して参加するまで高まったのは、課題を自分事化できたからではないか。

課題として、最後の平和集会は結局教師からの指示だったので、子どもから自主的に「集会をやるよ」という方向にもっていきかけた。きっとできたと思う。

平和のカタチはいろいろあること、戦争をしないことだけが平和ではないこと、日常を脅かすものすべてが戦争につながることなど、身近な問題として捉えられたと思う。

多様性の尊重という点でも大きな成果があったのではないか。

今回の協議から「成果と課題」を整理して追記する。

## 5. 「これまでの秋篠川、これからの秋篠川」 5年総合

奈良市立平城西小学校 樋口大介

### (1) 単元展開の概要

- ・秋篠川は身近な川であるものの、住んでいる場所によっては通学路として使用しない児童もおり、桜並木を歩いたことがない児童もいる。
- ・登下校の見守りに関しても通学路によっては、地域の方と出会わない児童もおり、地域で活動する方達の姿を実感しづらい児童もいる。
- ・「秋篠川源流を愛し育てる会」の方達の活動を中心に地域の方達の努力と活動を感じられるようにしたい。
- ・地域の「桜まつり」が去年、今年とコロナ禍によって中止になった。

「育てる会」の方で、「あんなに情熱的だったひとなのに…」というような方がいる。

▼子どもに秋篠川の未来の絵を描かせると、人の姿がない。

→ 水の汚れ具合や生き物、川の周り様子など、様々な角度から調べさせたい。

- ・地域への想いを聞き、自分できることを具体的に考え、行動させたい。

◇上口さんから教えていただいた、ペットボトルで作る簡易透視度計を使って水の汚れを調べる。

学校の前の水はきれいだが、少し下流へ行くと急に汚くなる。

実際に子ども自らが調べて比較することで、「なぜ下流へ行くと汚くなるのか」という課題意識が生まれる。 → 実感的な理解が必要（そのためには外へ出ていくことは必須）

- ・「秋篠川源流を愛し育てる会」のように外部人材を活用するときは、ただ教えてもらうのではなく、協働的に活動していこうとする横の関係でありたい。

→ 秋篠川を守るために、共に考え、共に活動できるように

- ・会の方の一番の思い…「活動してくれる若い人を増やしたい」

この思いを受け止められるように、人に焦点をあてた学びになるように、問いを精査する必要あり。

これからの実践になるので、終了後「成果と課題」をまとめ追記する。

## 6. 「町のすてき もっとしりたい たんけんたい」 2年生活

奈良市立朱雀小学校 本多雄大

### (1) 単元展開の概要

- ・夏の町探検では、  
「安全に配慮した道路がある」「車やバイクが通れない道がある」安全面に関すること  
「コープがある」「パン屋さんがある」飲食に関すること  
「ABC公園がある」「街区公園がある」公園に関すること      など多くの朱雀の特徴が見つかった。
- ・建物や事柄を踏まえて町探検のルートを決定する。
- ・公園が最も出てくることが予想されるので、公園を中心としたルートを探検する。
  - 朱雀のよさ、「すてき」を見つけさせたい。
  - 保護者や地域へのインタビューによって、「すてき」を見つけるきっかけを作りたい。
- ・朱雀の町の良さは、世代によって様々な意見があることや、学校行事や地域行事はたくさんの人がそれぞれの立場で力を合わせて取り組んでいることを実感させたい。

### (2) 意見交流

- ・生活科の目標、内容をクリアしているか、明確にする必要がある。
- ・子どもの変容について、
- ・公園に対する捉え方が変わった。(〇〇があるだけでなく、人の営みにも目向くようになった)
- ・行ったことがない公園が身近になった
- ・町のよさに気付き、言えるようになった
- ・生活科では「気付き」が大切。その気付きを交流することで新たな気付きにしたり、次の活動への意欲につなげたりしたい。そのためには、活動したら交流する場を保証することが大切ではないだろうか。
  - 気付きの質を高めるということ      そこが少し足りないのでは。  
(比較・関連・総合して思考する基礎を培う)